

令和3年度 中学生の「税についての作文」

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

「日本の水と税」

柏市立松葉中学校 三年 中垣 麟太郎

「あなたにとって、日本が世界に誇れるものは何ですか？」そう質問されると、きっとあなたは僕と同じように、和食、着物、アニメや礼儀作法など、代々受け継がれてきた日本独特の文化や、世界を先駆ける日本の技術について答えることだろう。

今年、オリンピック、パラリンピックが東京で開催された。そんなこともあって、ふと、文化や技術のほかにも日本が世界に誇れるものは、自分が知らないだけで数知れず存在するのではないのかと思い、調べてみることにした。そこで発見したのは、僕にとっての「あたりまえ」であり、世界共通の「あたりまえ」だと思い込んでいたものだった。

それは「水道水が飲める」ということだ。なんと、水道水を飲むことができる国は十五カ国程しかないといわれている。しかも、その中でも日本の水はきれいで、日本の水道普及率は九八・一％（二〇一九年、厚労省）と、日本のほぼ全域で水道が普及している。これを実現できているのは、水道法に基づいた高い水質基準に沿って水道が整備されているからだ。また、高い水質基準は、僕達国民一人ひとりが納税している「税金」で、維持されている。

一見、「水道水」と「税金」は、結びつきの無いように思えるが、実は大きな関わりがある。水道水がダムや湖から蛇口にやってくるまで、順に見てみる。後に飲み水になる雨水などを蓄えるダム、水をきれいにし、水道水にする浄水場、水道水を蛇口まで送り届けるための水道管などの管理、修理などをおこなうのに税金が使われている。

普段よく見る、公園で遊んでいる子どもたちが公園で水道の水を飲む、という風景は、目に見えないところで、数え切れない程の人々の協力によって実現しているんだなと感じた。ちなみに、公園の蛇口から出てくる水は、公園を管理している地方自治体が費用を負担しているのので、「地方税」と呼ばれる僕達が地方自治体に納めている税によって間接的に支払われている。

「水道水」について調べてみて、町のいたるところできれいな水を飲むことができるのは、僕たち国民一人ひとりが、「税金」を納めるという形で、協力しているからであることがわかった。また、誇れるものの本質は、あたりまえの中にあって、なかなか思いあたらないけれど、かなり深いもので、「税」にもそれに近いものを感じた。なので、みんなが自由に使える公園などの水道水は、国民一人ひとりの「誇り」をかりて使っているんだと思う。だから、「税」に対して意識しながら日頃の生活を暮らしていきたい。